2020 November
278号
11月
はあもにい
●医療法人創和会広報誌はあもにい／発行 医療法人創和会 理事長 重井文博
令和2年11月1日発行

# 新型コロナウイルス対策の一助としてサーモカメラを導入しました

しげい病院　検査健診部　技師長　谷 誠

▲総合受付横に設置

しげい病院では例年インフルエンザウイルスやノロウイルスなどの感染防止対策として、冬期には全職員に「健康管理表」で毎日体調のチェックを行なっています。今年は新型コロナウイルス感染症流行に伴って、３月から健康管理表に体温の実測値の記入を追加して、現在も継続的に行なっています。

また、新型コロナウイルス感染拡大初期の２月29日より、全入館者を対象に病院正面玄関入口で非接触型体温計での測定を行なっています。

非接触型体温計での測定後の対応として、36.9℃以下の方は入館OKで、37.0℃～37.4℃の方に対しては実測スペースで通常の体温計で再測定しています。再測定も含めて37.5℃以上の方は入館をお断りしています。

この度、毎年冬期に流行する季節性インフルエンザにも備えるため、非接触型サーモカメラ導入を検討しました。３社のデモンストレーションを行なった結果、「非接触型サーモグラフィーサイネージシステム」に決定し、９月23日に病院正面玄関の総合受付前に設置しました。

本機器は、警告灯装置付き非接触熱検知AIサーマルカメラとデジタルサイネージがスタンドで一本化しており、一度に複数人（最大30人まで）を同時検知し体表温度を表示できます。また、ウォークスルー方式で立ち止まる必要がなく、設定温度以上の発熱を検知するとモニター上で赤字に表示され、警告灯および音声でも注意を促します。

９月28日から運用しており、稼働時間は開門時間の８時（日曜日は15時）から閉門時間の21時までとしています。設定温度は37.5℃に設定し、検知された方には、実測スペースで通常の体温計で再測定してもらいます。

このカメラの導入が、発熱者の水際対策に役立つと考えています。

## 第１回　公開講座を開催しました

### 幸せに長生きできる「考え方」と生活習慣 ～新型コロナウイルスを乗り越えて～

９月26日（土）に、岡山市南区にある「西ふれあいセンター」にて、今年度の第１回目の公開講座を開催いたしました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、病院内での開催を見送っていましたが、36年目を迎えるこの伝統ある講座を何とか続けて開催したいと考え、西ふれあいセンターのふれあいホールをお借りし、座席はソーシャルディスタンスで、参加人数を限定して行ないました。

９月７日から､院内掲示･近隣の掲示板への掲示･フェイスブックへの投稿による参加募集を開始したところ、２日後には48人の定員に達しました。

当日はリピーターの方も多く、真鍋院長の講演を皆さん興味深く聞かれていました。また、帰り際に、「会場が広くてゆったりできて良かった」などの声もいただきました。

初めての院外での公開講座でしたが無事に終了することができ、新型コロナがきっかけで新しいチャレンジができました。

次回の公開講座は、10月24日（土）に川口看護部長による「コロナ禍からの新たな生活様式」です。　（井上）

## 入院棟１階　医療療養病棟から障害者施設病棟へ

研究所附属病院　入院棟１階　課長　合田 ゆう子

研究所附属病院の医療療養病棟は、1998年に一般病棟から機能転換し現在まで役割を果たしてきました。この度2020年10月より入院棟１階は、医療療養病棟から障害者施設病棟［障害者施設等入院基本料（10：1）］へ変更となりました。

研究所附属病院に長期に入院されている患者さんの多くは、何らかの疾患などで重度の肢体不自由や意識障害となった透析患者さんが多いのが特徴で、医療療養病棟も障害者病棟も約35％の透析患者さんが療養中です。２つの病棟を比べてみても障害の状態に大きな差がないことから、より患者さんの療養にあった体制変更としました。

▲入院棟１階病棟のスタッフ

**■今後の抱負**

高齢であっても、在宅復帰を諦めない医療とケアを患者さんに提供するために、多職種と協働し、患者さん一人ひとりに合った看護の提供に努めてまいります。当病棟には、治療は一段落したけれど自宅でのケアでは不安でもう少し病院で療養が必要な患者さんや、看取りの方向性を家族と共に考えていかなければならない患者さんなど様々な患者さんへの対応が求められています。今後も変わらず、急性期から回復期そして慢性期までをカバーできる研究所附属病院のケアミックスの体制の役割を果たしていきたいと思います。

また、長期的な医療が必要な患者さんがその人らしく快適に療養生活を送れるよう、多職種とも連携し病棟全体で取り組んでいきます。看護夜勤体制も看護師２名の配置ができるよう職員異動もありました。看護の質を高め、難病や人工呼吸器装着の患者さんもお受けできるよう、スタッフ全員で邁進してまいります。

# 消火技術訓練大会　～アスリート魂で掴んだ優勝！～

研究所附属病院　リハビリテーション部　山本 彩
研究所附属病院　事務部　医事課　小林 由依

10 月 1 日（木）、岡山消防教育訓練センターにて第 39 回 消火技術訓練大会が開催され、私たちは「消火器取扱競技 女子の部」へ出場しました。この大会は水消火器を使用して標的である４つのボールを落とすまでのタイム及び操作技術を競い、タイムだけでなく動作の規律性・正確性などあらゆる観点から厳しく採点が行なわれます。

最初は２人の息や歩幅が合わず、タイムを縮めようとすると動作が雑になることもありましたが、お互いに声かけや意識をすることによって徐々にタイミングが合い始め、スピードも上がっていきました。現地練習では、消防士の方からアドバイスをいただき、その都度改善しようと心がけました。練習後は動画を見返して、足の角度や手の位置などの欠点を見つけ集中的に修正し、万全の態勢で本番を迎えました。

大会当日はパートナーを信じ、緊張を吹き飛ばすほどの気迫で競技へ挑みました。今までの練習とそれぞれがバドミントン・バスケットボールで培った瞬発力や体力を活かすことができ、今までで１番納得のいく競技ができました。足を痛めて練習ができない時期や修正点が多く不安になる時もありましたが、努力が実を結びなんと“優勝”することができました！腕が筋肉痛になるほど重みのあるトロフィーをいただくことができ、感無量でした。

訓練を通して、放水で標的を狙うことの難しさや緊迫した現場での「迅速・冷静・手順の遵守」の重要性を実感し、学んだことは日々の業務でも活かしていきたいと思いました。

最後に応援してくださった皆さま、練習のために抜けた業務をカバーしてくださった部署の方々、そして貴重な機会を与えていただき、ご指導いただきました事務部 小笠原監督に感謝申し上げます。

# この人紹介 !!

研究所附属病院に初のデザイン担当者の栗原　玲音（くりはら　れおと）さんが、４月に入職しました！
初の企業出向や休日の過ごし方など色々とお話を聞きました。

**Q. デザインを学ぼうと思ったきっかけは？**

小さな頃から絵を描いたり工作が好きで、高校受験の時に「デザイン科のある学校に行きたい！」とデザイン科のある高校へ進学しました。デザインの基礎を学んだり、文化祭で木を使った小屋を設計して建てたり、外装デザインを行なったりと、楽しい高校生活を過ごしました。

大学受験の時も、デザインができる大学を探し、“福祉系のデザインなら、人の役に立てるデザインができるのではないか？”と期待して大学を選びました。卒業制作では「地域の病院における壁面アートを活かした環境づくり」と題して、和気町の平病院の病棟とエレベーターホールに病院周辺を流れる吉井川や金剛川、また町花の藤をモチーフにした壁面アートを作成し、新聞やニュースに取り上げてもらいました。

▲平病院の病棟とエレベーターホール（卒業制作）

**Q. 病院に就職してみてどうですか？**

入職後は院内で研修を１週間受けた後に、４月13日からデザイン会社へ出向しました。出向先では、飲食店のメニュー・ホームページのバナーの作成・観光マップの地図を作成したり、写真の合成や加工の技術を学びました。新型コロナの影響もありロケ撮影などはできず、スタジオ撮影のみでしたが、写真の撮り方やデザインに関してのプロの仕事を間近で勉強することができとても刺激を受け、この２ヵ月間ですごく成長できたと思います。出向先の会社はとてもアットホームで２ヵ月間楽しく過ごすことができました。

出向が終了し、７月に久しぶりに病院に戻って事務所で仕事をする時は、とてもドキドキしました。

**Q. 休日の過ごし方は？**

楽器を演奏することが好きで、中学・高校では吹奏楽部、大学では軽音楽部に所属していたため、ベースとギター、ドラム、トロンボーンが演奏できるので、家でも弾いたりしています。

また写真撮影や旅行も好きで、風景や人物の撮影をしたり、ドローンで動画を撮ったり、車が好きなので車を撮影して動画を編集したりしています。学生時代に行った小笠原諸島旅行は、一番思い出深く残っています。

**Q. 今後の抱負を聞かせてください**

病院全体のデザインの底上げを求められていると思います。掲示物や誘導サイン、各種パンフレットなど、今まで学んできたことを生かして作成をしていきたいです。

その中で、患者さんや職員の皆さんが過ごしやすく働きやすい環境を、デザインを使って整え、地域の方に選んでいただける病院になるように広報活動を頑張っていきたいと思っています。

まだまだ未熟ですので、ご指導の程よろしくお願いいたします。

（インタビュアー・井上）

# 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の導入について

しげい病院　IT 推進・情報管理室　係長補佐　松田 圭市

6 月 19 日に、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）COVID-19 Contact-Confirming Application がリリースされてから 4 ヵ月ほど経ちました。ダウンロード数も少しずつですが増えてきています。しげい病院では職員に COCOA 利用を推奨しており、全職員の 7 割を目標にし、導入状況を確認しています。とはいうものの、厚生労働省によると動作可能な OS バージョンは、iPhone 端末では iOS 13.5 以上、Android 端末では Android 6.0 以上のため 2016 年以前の端末ではインストールできない可能性が高いことを考えると、ある程度導入できない人が出るのは仕方がないところです。

私は、試行版のリリースとほぼ同時期にインストールして放置~~してきた~~使用してきたので導入に迷っている方の参考に感想をお伝えします。

個人情報については、そもそも取得されないので心配はいりません。位置情報の設定は必要ですが、GPS は使っていないので自分の居場所が特定されることはないでしょう。データ通信量は、インストール後 3 ヵ月で 2 MB も使っていないのでゼロみたいなものです。消費電力の面ではアプリそのものはほとんど消費しませんが、Bluetooth の常時起動により毎日数％消費します。ただ、もともと Bluetooth は低消費電力の規格なので大きな影響はないようです。COCOA を入れてからギガやバッテリーの減りが早くなった気がする人はおそらく真犯人が別にいるので確認をおススメします。毎週 1 回リマインドのプッシュ通知がきますが、あまり気になりません。お守りをぶら下げるよりも邪魔にならない感じなので、まだの人はインストールしてみてはいかがでしょうか。

▲陽性者との接触確認が可能

そんな空気のような COCOA ですが、インストールしても新型コロナウイルスへの物理的な防御力はゼロですので、やはりマスクと手洗い、標準予防策が大切だと思います。

重井医学研究所附属病院

# 小児療育センターの歩み

重井医学研究所附属病院　小児科部長　今村昌司
小児療育部主任　新　藍

## 小児療育センターの成り立ち

重井医学研究所附属病院　小児療育センターの前身である小児言語療育外来は、2002 年 4 月に小児科医 1 名、言語聴覚士 1 名だけの小さな船出でした。この頃は、世の中では「特別支援教育に関する調査研究協力者会議」の設置（2001 年）、「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」結果報告（2002 年）、発達障害者支援法の制定（2004 年）、特別支援教育推進のための学校教育法等の一部改正（2006 年）が実施されるなど、「発達障害」や「特別支援教育」が急速に社会問題化してきた最中のことでした。

「分断の危機にある個をつなぎ合わせ、相互信頼関係の再構築で、子どもたちに生きた言葉を育てる」のコンセプトを元に立ちあがり、2004 年 1 月には、こうした世の中の変化に呼応するように、小児療育センターとして新生されました。現在は小児科医 4 名、言語聴覚士 13 名、作業療法士 3 名、心理士 4 名、専門事務 2 名とスタッフ数も増え、乳幼児期から思春期、青年期まで長期にわたる神経発達症児の療育・支援専門機関として、地域に貢献できるセンターを目指してきました。

当センターの特徴として、小児科医を中心として、発達に偏りがある子を心身ともに follow していること、また多岐にわたるスタッフによる、きめ細やかな対応をしていることがあげられます。苦手な部分を無理に伸ばすのではなく子ども自身を受け止めることの大切さを日々学んでいます。神経発達症児は、特に心の発達がゆっくりであり、就学後の関わりも重要となります。就学までしか療育を行わない療育医療機関が多い中、希望があれば青年期まで長期にわたり療育を継続することを目標としていました。

現在では、年間に約 500 名の新規患者と、1 日平約 90 名の方々が診療、療育等に通院されています。乳幼児期から青年期まで、神経発達症児の療育・支援の専門機関として地域に貢献して参りました。試行錯誤の連続でしたが、お陰さまで、地域に支えられ現状まで育てていただくことができました。ここに深く感謝の意を表します。

## 小児療育センターのこれから

「子どもたちの豊かなこころとからだを育てる」という思いを持って、初診から検査、療育につながる時間までをとにかく待たせない、親や子どもが必要とするなら子どもの発達にどこまでも付き合う、といった姿勢で取り組んできました。また、重井薬用植物園や重井昆虫館と

きっと大丈夫くん

うろの木

ひな人形

低学年グループ

いった施設を有する病院として、自然教育を理念の一つに取り入れてきました。小高い丘の上にある立地条件を活かし、新緑の葉やどんぐり、松ぼっくりを使って季節に関する工作をするなど、自然にふれ合う機会を意識して療育の中に取り入れています。

しかしながら、昨今の様子を伺うと、教育現場や家族からのニーズの多様化、新規患者数の飛躍的な増加、療育専門病院や医師数の不足、患者家族からの「病院で療育を行っているのだから安心、すべておまかせします」という病院依存思考など、療育センターの船出の時期からは予想もできなかった問題が多くなってきております。当センターとしても、現在の地域からのニーズにきめ細かく応え、患者自身が自分の特性に向き合うこと、症状を完全に無くすことよりも、特性を持ちながらも症状の改善に伴う学校、家庭における悪循環な不適応状態を好転させること、特性を自分らしさとして折り合うこと、特性受容を通じてほどほどの自尊心を形成し、特性を踏まえた適応性の高い個性の形成ができる大人になることなどを目指し、どのように舵を切っていくかを考える転換期に来ているのではと考えています。

小児療育センターのあり方を今一度考え直し、小学生以上の患者の療育頻度を減らし、終了基準を設け、それでも患者満足度を維持するには、これまでの対応をより深く学び、より丁寧に接する以外にないと考えています。

「より深く学ぶ」とは、目の前にいる子どもの特性や状態を的確に把握し、その子に合ったアプローチ方法を選択し、発達を促すことと考えます。コミュニケーション手段の指導（言語、非言語、PECS：絵カード交換式コミュニケーションシステムやVOCA：Voice Output Communication Aidなどの AAC：拡大・代替コミュニケーション）をはじめ、インリアルアプローチ、TEACCHプログラム、ABA（応用行動分析）、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレントトレーニング、感覚統合療法など、発達に特性がある子どもへのアプローチは様々あります。こういった手技に精通し、学び続ける姿勢が子どもや保護者の信頼を得るために必要と考えます。

「より丁寧に接する」とは、月1～2回程度しか接しないからこそ気が付ける子どもの小さな変化を保護者に伝える、保護者の話をじっくり傾聴する、保護者が話す内容を受け止め、すかさず保護者の対応を褒める、現在の状況や子どもの将来像を保護者と共有する、といったことになります。

子どもが変われば親が変わる、また親や周囲の環境、周囲の大人が変われば、子どもも変わっていきます。特性を持った子どもが伸び伸びと成長できるよう、学校、地域社会にfeedbackしていくことがこれからの療育センターに求められているのではと考えています。これからも地域社会に貢献できる療育センターであり続けられるように、一層の努力に励んで参ります。

高学年グループ

こいのぼり

待合

待合

## 健康増進施設　はぁもにぃ倉敷通信

### 「世話にならんぞマシントレーニング講座」

はぁもにぃ倉敷　チーフ　竹井 優太郎

「世話にならんぞマシントレーニング講座」は、高齢のために軽めの運動を少しずつ続けたい方や、要介護認定をお持ちで既にデイサービスなどに通われている方で、「もっと運動がしたい」というニーズにもお答えできる講座です。イスに座って行なうので、床に座ることができない方でも安心して受講していただけます。

まず、簡単にストレッチをして体を運動しやすい状態にします。その後、チェアビクスで有酸素運動を行ないながら、肩をほぐしたり・強くしたりします。コグニサイズも取り入れています。

トレーニングジムでは、初動負荷が少なくエクササイズ未経験者や高齢な方に、安心してマシンを使っていただけます。シート調整もなく、すぐにエクササイズが開始できる点もおすすめです。

定員は 10 名の少人数講座となっており、現在のご利用者さまにもとても和やかな雰囲気の中で、安心して取り組んでいただけています。そして、ご利用者さまの運動に取り組む姿から、積極的・継続的に体を動かすことは介護予防の柱の一つであり、「世話にならんぞ」という講座名が、その目的に向かって取り組む良いモチベーションになっているのではと感じています。

はぁもにぃ倉敷は医療法人創和会グループの健康増進施設です。

## 催し物案内

**重井薬用植物園**

**植物園を楽しむ会**

「荻揺れる秋の野を楽しむ」

日時：11 月 15 日（日）
　　10：00 ～ 12：00

会場：重井薬用植物園

## 編集後記

●【問】以下の文中に一箇所間違いがあります。間違っている箇所を探しなさい。

Apple と Google が共同でスマートフォンでの新型コロナウイルス曝露通知の仕組みを開発し、５月 20 日に各国衛生当局に提供開始しました。これにより各国で接触通知アプリの開発が可能になりました。仕様上１国１アプリの切り札です。日本では COCOA が開発され、6 月 19 日にリリースされました。開発期間わずか１ヵ月。ソースコードは全て公開されていて透明性が高く、最小限の情報しか取得しないせいで不具合対応に苦慮するくらいプライバシーに配慮されています。機能が絞られていてよいアプリだと思うのですが、なかなか普及しないですね。早くコロナ鍋が終わることを願っています。（MK）

●鹿久居島にある「まほろば」という施設に行きました。古代体験ができる施設で“火おこし”や“カヌー”を楽しみました。夜には野生のタヌキや鹿も見られて、子供は大興奮していました。高床式住宅や竪穴式住居も見ることができ、貴重な体験ができました。県外には行けないので岡山県内の野外で楽しめるスポットを探すと、今まで知らなかった施設がたくさんあり、徐々に巡って岡山県を満喫してリフレッシュしたいと思います。（ＩＹ）

インスタグラム はじめました！

医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に


**しげい病院**
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

**重井医学研究所附属病院**
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

**重井医学研究所**
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

**岡山しげい訪問看護ステーション**
岡山しげい居宅介護支援事業所
〒701-0202 岡山市南区山田2117
TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

**倉敷しげい訪問看護ステーション**
倉敷しげい居宅介護支援事業所
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

**重井薬用植物園**
〒710-0007 倉敷市浅原20
TEL086(423)2396

**倉敷昆虫館**
〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207